

環境技術実証事業の国際標準化等に関するシンポジウム等の開催報告

開催日：2月3日（金）13:00～16:00

場 所：東京国際フォーラム ガラス棟会議室 G409

登壇者：環境省 総合環境政策局 総務課 環境研究技術室 室長 太田志津子様

環境省 総合環境政策局 総務課 環境研究技術室 主査 高松達朗様

放送大学 教授 岡田光正様

（一社）埼玉県環境検査研究協会 業務本部長 野口裕司様

実証機関：8名（内訳は別紙1参照）

一般参加者：29名

事務局：株式会社エックス都市研究所 山崎、渡辺、土井、乾、伊藤、横山

－ プログラム －

0. 開会

1. 環境技術実証事業の目的、実績等について
2. ETV の国際動向と ISO14034 の概要
3. テーマ自由枠の実証試験について
4. 環境技術実証事業における各技術分野の紹介と今後の取組
5. 全体討議
6. 閉会

休憩後、技術実証等相談会を実施

(配布資料)

資料0 シンポジウム等のプログラム

資料1 ETV リーフレット

資料2 座席表

資料3 発表資料一式

資料4 テーマ自由枠公募資料一式

資料5 実証済み技術の導入事例集

0. 開会

- ・環境省 総合環境政策局 総務課 環境研究技術室長 太田志津子様よりご挨拶。
- ・配布資料の確認。

1. 環境技術実証事業の目的、実績等について

- ・環境省 総合環境政策局 総務課 環境研究技術室 主査 高松様よりご発表。
- ・質疑なし

2. ETV の国際動向と ISO14034 の概要

- ・放送大学 教授 岡田光正様よりご発表。
- ・以下、質疑内容。

Q：ISO-WG では、各国戦略的な動きも出てくるかと思うが、実情はどうか。

A：一般的に ISO-WG 以外の場で、自分の主張どおりになるように他者を説得する動きは頻繁に行われる。しかし、今回の ETV の国際標準化に関する WG 参加者は 10 名程度なので、あまり会議以外の場での交渉は少なく、会議の場で順当に決まっていた印象である。(放送大学 岡田様)

3. テーマ自由枠の実証試験について

- ・(一社) 埼玉県環境検査研究協会 業務本部長 野口裕司様よりご発表。
- ・以下、質疑内容。

Q：中小企業の方が ETV 事業への申請を検討する際に、いくつかのハードル等あるかと思うが、それをどのように克服していけばよいか。

A：自社でデータを計測する際には、データの妥当性を認識する必要がある。その方法の一つとして、各技術分野で策定している実証試験要領を活用することが挙げられる。ETV 事業では既存データの活用も可能なので、ぜひ意味のあるデータを計測していただきたい。(埼玉県環境検査研究協会 野口様)

4. 環境技術実証事業における各技術分野の紹介と今後の取組

- ・環境省 総合環境政策局 総務課 環境研究技術室 主査 高松様よりご発表。
- ・以下、質疑内容。

Q：中小水力発電技術分野について、地方では発電に利用できそうな場所はあるが、水利権の問題で先に進まないということもあるかと思うが、その辺りはいかがか。

A：実際に今年度の申請技術の内、自社試験の際には短期間の水利権が得られたが、本事業で実証をする際に、20 年程度の水利権の申請をしたところ、協議に半年ほどかかり、今年度実証まで至らなかった事例がある。実証機関として、水利権の交渉まで行

うことはできないが、情報提供はできると考えている。水利権の手続きに関する法規制も変わってきており、地域によって扱いが異なるため早めに相談いただければ対応させていただきます。(小水力開発支援協会 松尾様)

Q：海外製であり日本でほとんど紹介されていない技術の実証も可能か。

A：販売代理店でも申請可能であるため、実証可能と考える。(環境省 高松様)

Q：ロゴマークを使用できる範囲はどの程度か。実証時点から技術のバージョンアップを行った際に、再度申請を行う必要があるのか。

A：中小水力発電技術分野の例で言うと、発電機の実証を行う場合は、ETV 事業で実証を行った発電機を内蔵している発電設備ということで PR できるが、発電設備自体を実証すると(性能に変化のある)バージョンアップを行った時点でロゴマークは使用できないことになる。申請段階で実証機関と相談の上、より PR 効果の高い見せ方ができる実証対象を決めてほしい。(環境省 高松様)

5. 全体討議

・以下、質疑内容。

Q：申請時に技術の性能を記載することについて伺いたい。地中熱分野の実証単位(A)はシステム全体を対象にしており、実際に住宅や事務所に使用している状態で半年ほど計測をして実証結果を出している。ヒートポンプの性能としては、カタログ値があるが、その値は安定的な条件で使用する場合の値となっている。ETV 事業で実証を行う際には、ユーザーの使い方に拠る部分が大きく、運転を頻繁に停止することもあり、エネルギー効率としてはカタログ値よりも悪い値が出てしまう。そのような状況の中、申請時に性能をどのように示したらよいか。(地中熱利用促進協会 宮崎様)

A：性能を示す場合には、同時にその性能が出る条件も提示することになる。開発者が現場を見ながら、条件を決めてその時の性能を提示することがよいのではないか。(放送大学 岡田様)

6. 閉会

(シンポジウムの様子)



○技術実証等相談会

- ・各技術分野に分けて相談ブースを設け、来場者と技術実証に関する相談会を実施。
- ・テーマ自由枠に関して2件の相談があり、他の技術分野においても1件以上の相談があった。

(技術実証等相談会の様子)



(別紙1)

実証機関出席者リスト

所属・担当技術分野	氏名
(一財) 建材試験センター/地球温暖化対策技術分野 (照明用エネルギー低減技術)	泉田 裕介
(一財) 建材試験センター/ヒートアイランド対策技術分野 (建築物外皮による空調負荷低減等技術)	緑川 信
(一社) 埼玉県環境検査研究協会/有機性排水処理技術分野、 湖沼等水質浄化技術分野	野口 裕司
(一社) 小水力開発支援協会/中小水力発電技術分野	春増 知
	松尾 寿裕
(特活) 地中熱利用促進協会/ヒートアイランド対策技術分野 (地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム)	宮崎 真一
日本ミクニヤ(株) /閉鎖性海域における水環境改善技術分野	柴田 晃
	深谷 惇志

※順不同、敬称略